

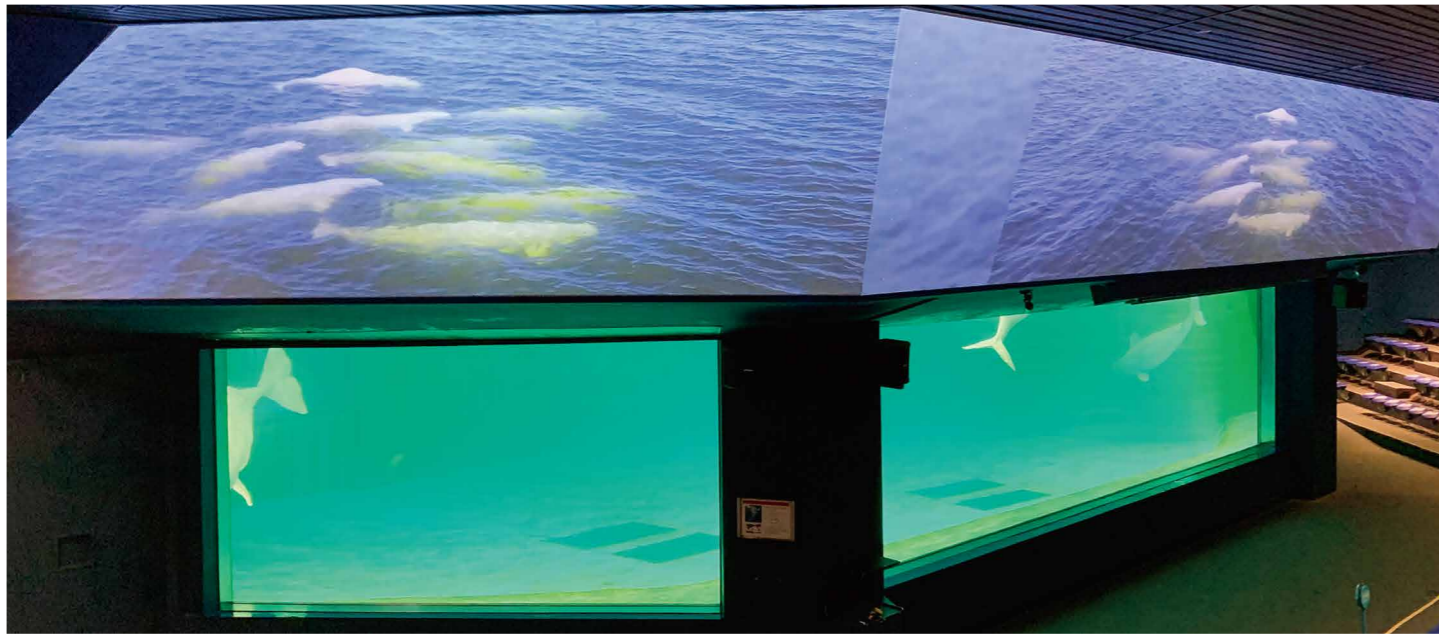


さがまた

No.104

2025.1

Kamogawa
SEAWORLD



新しくなったマリンシアターの映像展示 カナダ・チャーチル紀行2024

マリンシアターでは2018年に映像・音響設備の更新をおこない、ショープールの上部3面に大きなスクリーンを設置しました。このスクリーンにプロジェクター8台を使って、イルカ類が発している超音波を波形として視覚化した解説をおこなっています。パフォーマンスの前後には野生のベルーガの映像も映写していますが、使用期限が過ぎたことからカナダのチャーチルで新しい映像素材の撮影をおこなうことになりました。この撮影に係員が同行したのでその様子を紹介します。

チャーチルはマニトバ州北部の小さな町です。チャーチル川の河口近くに位置し、夏の季節になるとチャーチル川と河口周辺のハドソン湾に数千頭のベルーガがハドソン海峡から南下して集まることが知られています。水深が浅く天敵のシャチが入って来られない安全な川でベルーガは出産や子育てをおこないます。また、このベルーガを目当てにホッキョクグマも集まってくることから、チャーチルは "Beluga Capital of the World" や "Polar Bear Capital of the World" という別名でも知られ、研究の拠点ともなっています。



▲ドローンで撮影したチャーチル川河口(左手はハドソン湾)

鴨川シーワールドは過去に2度、ベルーガ捕獲のためにこの町を訪れています。1度目は日本で初めてベルーガを導入した1976年です。4名の職員が現地の方々に協力してもらいながら10日ほどで仮設プールを完成させた後、3頭(オス1、メス2)を捕獲して、ホッキョクグマに盗まれないよう夜警もし



▲チャーチルの街のランドマーク(上:チャーチル港の倉庫、下:チャーチル駅舎 1976年撮影)

ながら約1カ月飼育を続けてから日本まで輸送した記録が残されています。仮設プールの設営に日数を要したために捕獲作戦は2日間しか計画することができず、何とか確保できた3頭を仮設プールに移した翌日以降、チャーチル川でベルーガを見つけることはなかったそうです。



▲1976年に協力を得て製作した仮設プール(上)は1988年の捕獲でも使用された

海外への渡航がまだ珍しい時代に、北極圏に近い辺境ともいえる場所での1カ月以上の苦労には頭が下がります。1988年の2回目の渡航で捕獲作業が円滑におこなわれたのは、この時に築かれた現地の人たちとの良好な関係があったのだと想像できません。その2回目の捕獲・輸送で当館に仲間入りしたのがオスのベルーガ「ナック」です。この時はアメリカの水族館との共同作業で、アメリカ隊はメス、我々はオスの捕獲が目的だったのですが捕獲できた個体はメスばかりで、ようやくめぐり会えた元気なオスがナックでした。この2回目の渡航から2年後にカナダからベルーガを導入することはできなくなったため、ナックは現在日本の水族館で飼育されているベルーガで唯一のカナダ産ベルーガです。



▲1987年搬入当時(上)と最近(下)のナック

3回目の渡航となった今回の滞在期間は2024年8月5日～8日の4日間でした。過去2回は船外機を付けた木製のカヌーでしたが、今回はゾディアックの名称で知られるゴムボートに乗って、チャーチル川の下流から河口域、さらにハドソン湾に出てすぐの範囲でベルーガを探しながら撮影をおこないました。数頭で行動するオスの群れや、メスと子どもが集まった大きな群れ、単独で行動している個体など様々なベルーガの様子が見られ、中には生後間もないと思われる赤ちゃんベルーガもいました。カナダ政府が1990年にベルーガの輸出を禁

じて以降、エコツーリズムへの関心の高まりによりチャーチルにも多くの観光客が訪れるようになり、ベルーガはツアーボートと人にとっても慣れていました。エンジン音やボート上で私たちが立てた音に反応して集まってくるだけでなくボートと並走して泳いだりすることがあり、約30分という長い時間ボートの周りを泳ぎ続けた群れもありました。また、水中カメラの撮影では、見慣れないカメラを不思議そうにのぞき込む姿を映像に収めることもできました。



▲カメラをのぞき込む水中のベルーガ

特に子どものベルーガは好奇心旺盛なようで、カメラの前にとどまることが多く、その可愛い様子に私たちも見入ってしまいました。さらに、撮影中にはベルーガだけでなくホッキョクグマやワモンアザラシにも出会うことができました。ホッキョクグマは泳いでいるところを発見したのですが、水中では天敵と獲物の関係が逆転して、ベルーガにもあそばれていたのは新しい発見でした。



▲ホッキョクグマを追いかけて遊ぶベルーガの群れ

撮影に同行してくれた現地のガイドの話では、全行程を通してこれだけたくさんベルーガをはじめとする野生動物を見ることができたのは珍しいとのことでした。

今回の渡航には撮影同行のほかにも一つ目的がありました。それはチャーチル川のベルーガの鳴き声(鳴音)を録音することです。発見した群れの近くで小型の水中マイク型体のレコーダーをボートから水中に垂らしての録音でしたが、ヘッドフォン



▲今回(上)と1988年(下)のハドソン湾周辺(今回流水はまったく見られなかった)

で同時に確認しながらの録音ではなかったため、作業を終えた宿舎でSDカードからデータを取り出して確認しなければなりません。しかし、高緯度にあるチャーチルの夜がいくら長いとはいえ数時間分のデータを聞くのは無理なので、しっかりした確認は帰国してからおこないました。SDカードには様々な鳴き声が記録されていて、当館のベルーガと似た鳴き声もあれば今まで聞いたことのないような鳴き声もありました。「海のカナリア」とも呼ばれる美しい鳴き声が特徴のベルーガですが、録音データでは常に鳴き声が響いており騒々しいくらいでした。にぎやかな鳴き声を聞いているとチャーチル川のベルーガたちがどのくらいの範囲の仲間とこの声でコミュニケーションを取っているのか興味がわいてきますが、まずは基本的なデータ解析から始めて、ナックはもちろんロシア産のベルーガたちが発する音とも比較してみようと考えています。いつかマリンシアターの展示で結果を紹介したいと思います。今回撮影した映像は専門家に編集してもらいベルーガパフォーマンスの前後に映写していますので、ご来館の際にはナックの生まれ故郷の様子をぜひご覧ください。



▲ カマイルカの親子(左ティア親子、右ディアナ親子)



▲ 分娩中のディアナ



▲ 誕生の瞬間(母親:ティア)



▲ 呼吸(ディアナ親子)



▲ 係員による哺乳

カマイルカの出産

昨年8月「イルカの海」で2頭のカマイルカが出産しました。8月8日にオスの赤ちゃんを産んだ「ディアナ」は3度目の出産、8月23日にメスの赤ちゃんを産んだ「ティア」は初産でした。ディアナの出産は赤ちゃんの尾びれの先端が見えてから6時間以上も分娩が進まないという難産になりましたが、それでも赤ちゃんは無事に生まれ、心配されていたティアの出産も初めてとは思えないほど順調に経過しました。実はディアナとティアの2頭も親子で、ティアの子は国内初の飼育下3世代目のカマイルカとなりました。

無事に生まれたそれぞれの赤ちゃんでしたが、ディアナの子は初乳を飲むまでに1日もかかり、その後も授乳の回数が少なかったため、母親から採った母乳を係員から与えて哺乳を補いました。追加の哺乳は3時間おきにおこないましたが、幸いすぐに母親からの

授乳が増え、体重も安定して増えたので4日目で終わることができました。一方、ティアの子は誕生直後から泳ぎが安定せずプールサイドの壁にぶつかってしまいそうになるため、ディアナ親子がいる中、可動式の床を上げて水深を浅くして、ウエットスーツの係員がプールに入って衝突を防がなければなりません。その後、少しずつ床を下げ親子の泳ぎが安定すると、出産から7時間40分ほどで初授乳を確認することができました。その後も授乳は続いていましたが、ティアの子も母親からの哺乳が足りず体重が増えなかったため、追加哺乳を開始することになりました。新米ママのティアの育児は問題ありませんが哺乳の量は足りていない状況が続いたため、追加の哺乳は11月まで継続しました。

鴨川シーワールドでのカマイルカの子は授乳が増え、体重も安定して増えたので4日目で終わることができました。一方、ティアの子は誕生直後から泳ぎが安定せずプールサイドの壁にぶつかってしまいそうになるため、ディアナ親子がいる中、可動式の床を上げて水深を浅くして、ウエットスーツの係員がプールに入って衝突を防がなければなりません。その後、少しずつ床を下げ親子の泳ぎが安定すると、出産から7時間40分ほどで初授乳を確認することができました。その後も授乳は続いていましたが、ティアの子も母親からの哺乳が足りず体重が増えなかったため、追加哺乳を開始することになりました。新米ママのティアの育児は問題ありませんが哺乳の量は足りていない状況が続いたため、追加の哺乳は11月まで継続しました。

験から新生児は生後50日前後で離乳時期をむかえることがわかっています。ディアナの子は38日齢と速い段階でエサの魚を食べ始め、4カ月齢時点で1日に1.5kgを安定して食べるようになりました。ティアの子も魚を食べ始めてからは、早々に追加哺乳を終え、同じく1日1.5kgのエサを安定して食べています。12月時点でディアナの子は体長が108cmから145cm、体重が14.4kgから41.5kg、同じくティアの子は102cmから135cm、11.4kgから34.0kgまで成長し、2頭で追いかけてこをするなど行動にも発達が見て取れます。これからは課題はあると思いますが、2組の親子4頭と一緒に泳ぐ姿を見ると誇らしい気持ちも感じます。

海獣展示二課 細野 透
Toru Hosono



▲ 左からテオ、ヴィズ、リーナ



▲ 母親ミリーとテオ
(上:生後8日目、下:生後約1年)



▲ ヴィズのバブルリング!



▲ 3頭で遊ぶ子供たち
(左からテオ、ヴィズ、リーナ)

鴨川シーワールド生まれのベルーガたち

鴨川シーワールド生まれの3頭のベルーガたちの近況を報告します。

2021年7月22日誕生した「リーナ」(メス)は、当館におけるベルーガ飼育45年目にして初めての繁殖個体です。母親「ニーナ」にとっても初産でしたが育児はほぼ問題なく順調に成長してきました。昨年11月時点で体長は260cm、体重は354kgです。パフォーマンス出場にむけたトレーニングも進めています。

リーナ誕生6日後の7月28日に生まれた「ヴィズ」(メス)は、生後6日目から元気を失い危険な健康状態になってしまったため、魚類飼育用の水そうに移動して係員が交代で付ききりの治療と哺育を続けました。さらに、なんとか体調に回復のきざしが見られた矢先に母親が病気で急死してしまったため、係員を親代わりに育ちました。そのため魚類用水そうでの飼育が終わりマリンシアターに戻って

きた時、ヴィズはベルーガの群れの中での振る舞い方を学ばなければなりませんでした。同じ年のリーナが遊び相手になってくれたおかげで少しずつ群れに溶け込むことができました。治療と人工保育期間におこなったリハビリや遊びをとおしてヒトに馴れていたヴィズはリーナよりひと足早くパフォーマンスに出場していて、父親「ナック」とメスの「マーシャ」と一緒に活躍しています。体長252cm、体重292kg(2024年11月時点)の体はナック、マーシャに比べひときわ小さいですが、お客様からもらう歓声では引けを取りません。

そんなヴィズの新たな遊び相手になり始めたのが、昨年9月に1歳をむかえたオスの「テオ」です。1歳時の体長は231cm、体重258kgで、1年間で体長が70cm、体重は180kgも成長しました。これは37年前にマリンシアターに仲間入りした時の父親「ナック」(249cm、

270kg)に迫る大きさで、おそらく今年の前半には同じ体格になると思われます。ベルーガの新生児では、生まれた時の体の大きさに雌雄差があることが報告されていますが、実際に生まれた当時のテオはメスのリーナとヴィズの大きさを、体長で約30cm、体重は約20kg上回っていました。これから先もテオを含めた繁殖個体3頭の成長を記録することで、ベルーガの初期成長に関する知見が得られるかもしれません。

時々3頭がそろってショープールにいると、子供同士での遊びはもちろん、お客様を追いかけて、時に得意げに回ってみせるなど微笑ましい姿も見せてくれます。これからも群れの中で成長してゆく3頭の子もたちをしっかりと見守っていきたくと思っています。

海獣展示一課 鈴木 みさき
Misaki Suzuki

夏の名物! サマースプラッシュ

2024年のサマースプラッシュは、例年より早い7月1日から開業記念日の10月1日までの3カ月間、たくさんのお客様に笑顔と感動と海水をお届けして、大盛況のうちに終了することができました! 16℃ほどしかないシャチプールの海水で、一昨年に続き史上最高の暑さとなった夏を吹き飛ばそうと、シャチたちも一生懸命尾びれを振り続けてくれたので、きっと涼しさを感じていただけたのではないのでしょうか。サマースプラッシュは終了しましたが、豪快なジャンプは寒い季節でも披露しますので、引き続き「ずぶぬれ注意!」をお願いします。

海獣展示一課 軽部 芽未
Meimi Karube



2羽のヒナ誕生

昨年、ロッキーワールドでは8月24日にエトピリカ、8月26日にオウサマペンギンのヒナが誕生しました。どちらも子育て経験の浅いペアが親となりましたが、エトピリカのペアは面倒見がよく、ヒナはふ化から50日で幼綿羽も抜け、立派な若鳥の姿になりました。オウサマペンギンのペアは周りのペンギンたちを気にしてヒナを抱かなくなってしまいました。親子を隔離することで問題なく面倒を見るようになり、10月半ばにほかのペンギンたちとの同居を再開しています。新たに仲間入りした2羽をぜひご覧ください。

海獣展示三課 堤 陽彩
Hiro Tsutsumi



ウミガメの保護活動2024

鴨川市の海岸では、毎年6月から8月にかけてアカウミガメが産卵のために上陸します。鴨川シーワールドでは、この卵の保護活動を2002年よりおこなっています。2024年は2件の産卵を確認し、見守りを行いましたが、初確認となった5月31日の産卵場所はふ化に適さない環境であったため「ウミガメの浜」へと保護し、71個体の子ガメがふ化しました。6月17日に確認した2件目は保護の必要がなく、自然環境下で37個体が海へ帰りました。また、隣接する勝浦市の要請で保護した卵からふ化した57個体の子ガメを、産卵場所の海岸から放流しました。

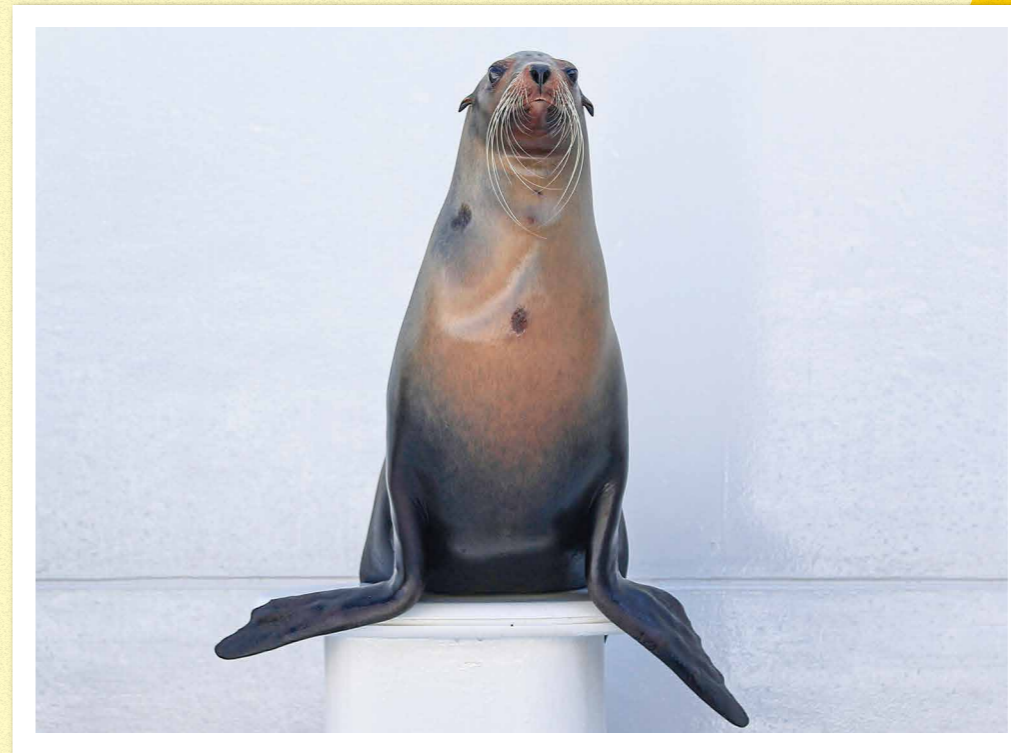
魚類展示課 吉留 健
Takeshi Yoshidome



開業記念日

2024年10月1日は鴨川シーワールドの54回目の開業記念日でした。当日は、毎年おこなっている館長の開業記念特別レクチャー「鴨川シーワールドの歩み」で、この1年間の出来事を中心に54年間の活動を紹介しました。さらに開業月の10月には「絶滅危惧種の保全活動」、「ウミガメが生まれた2024」、「ペルーガの成長」、「カマイルカの出産〜育成」と題したレクチャーを週末ごとに実施しました。来年の55周年にも多くの方にご来館いただけるよう、魅力的な企画を考えていく予定です。

マーケティング課 古賀 壮太郎
Sotaro Koga



▲ カリフォルニアアシカ「コナ」

私のイチオシはメスのカリフォルニアアシカ「コナ」です。

私は鴨川シーワールドに就職してから大きな目標を1つ決めていました。それは「自分がトレーニングしたアシカがパフォーマンスで活躍すること」でした。その目標を達成させてくれたのが今回ご紹介する「コナ」です。

コナは2010年6月15日に誕生しました。はじめは先輩がトレーニングをしていましたが、私は目標達成に向けてチャレンジしたいと思いトレーニング担当を希望しました。そこからコナと私のパフォーマンスデビューへ向けての日々がはじまります。少し怖がりな慎重な性格のコナは新人の私にすぐ警戒していました。先輩とはスムーズにアシカパフォーマンスステージへ出ているのに、私とはステージに出ることすらできません。試行錯誤しながらも「大丈夫だよ。怖くないよ。」と声をかけながら一緒にステージへ行ったり来たり何回も何回も往復した私の足がパンパンになったのを覚えています。ステージに出られるようになって

も、まだまだ種目のトレーニングや当時パフォーマンスに出場していたアシカたちとの顔合わせなど様々な課題を突破していかなければなりません。多くの課題に焦った私は突破することに必死になり、コナの気持ちを考えずにトレーニングを進めてしまっ、再びステージへ出ることもできなくなり、やっとの思いでステージに出られたと思ってもサインには反応がなくなってしまい、振り出しに戻ってしまうほど信頼関係を崩してしまったこともあり。動物たちと信頼し合い気持ちが通じ合ってこそ楽しいパフォーマンスを披露できるのだと私に改めて教えてくれました。そして、2015年に見事パフォーマンスに出場することができました。緊張している私を横目にコナは堂々としていて「大丈夫。怖くないよ。」とされているようでなんだか不思議な気持ちと、コナと気持ちが通じ合えたと感じた瞬間でした。私の新たな目標は「コナと姉妹のような関係でこれからも一緒に成長していくこと」です。

海獣展示三課 尾高 久代
Hisayo Odaka

飼育員のイチオシ

「コナ」とパフォーマンスデビューへ



▲ パフォーマンス



▲ 一緒にトレーニングをした大技「片手倒立」

Kamogawa Sea World NEWS

鴨川シーワールドニュース
2024/5/1 ▶ 2024/10/31

動物友の会月例会

テーマ:調べてみよう!鴨川シーワールドのなかまたち

実施日	タイトル	出席者数
2024年度 5/18、25	食いしん坊選手権(エサ)	64名
6/22、29	カクレマノミ大增!?(繁殖)	85名
7/20、27	鴨川シーワールドの保全活動	47名
8/24、31	夏休み特別企画 作ってみよう! 鴨川シーワールドのなかまたち	77名
9/21、28	鴨川シーワールドの保護活動	50名
10/19、26	オジサンのはげはネコのヒゲ? (感覚・能力)	37名

動物友の会8月例会
[夏休み特別企画作ってみよう!
鴨川シーワールド
のなかまたち]



イベント

館内催事

- 6/15 千葉県民の日
・千葉県内中学生以下無料入館(1,792名入館)
・千葉県の魚「マダイ」の放流



千葉県民の日
「マダイ」の放流

- 7/1 ~ 9/1 サマーイベント
・シャチのサマースブラッシュ
・夜の水族館探検ナイトアドベンチャー(計38回、2,638名)
- 9/6 ~ 10/1 サマースブラッシュアンコール

館内催事

- 9/14、16 鴨川シーワールド「敬老の日」
・千葉県在住の60歳以上無料入館(2,048名)
- 10/1 鴨川シーワールド開業記念日
・特別入館料金
・勝俣館長によるレクチャー
「鴨川シーワールドのあゆみ」(参加者100名)



開業記念
特別レクチャー
「鴨川シーワールドの
あゆみ」

レクチャー

- 5/9 令和6年うみがめに係わる研修会「アカウミガメの産卵と保護」
主催:千葉県海漁業調整委員会 講師:吉村課長(参加者36名)



うみがめに
係る研修会
「アカウミガメの
産卵と保護」

- 5/18、19 「国際博物館の日」協賛行事
特別レクチャー「シャチものしり講座」(計2回実施、参加者270名)
- 6/10 ~ 10/30 動物レクチャー
「シャチとの歩み」、「ウミガメが生まれた」他(計5回、参加者211名)
- 10/5 ~ 27 開業記念特別レクチャー「ウミガメが生まれた2024」、
「カマイルカ出産~育成」他(計8回、参加者486名)

研究発表

- 10/2、3 2024年度 関東東北・北海道ブロック
動物園水族館合同技術者研究会
「改修工事中の熱帯性植物の管理について」発表者:畑社員

その他

- 5/11 ~ 6/1 水族館満喫体験(計4回、参加者40名)
- 5/12 ~ 6/2 水族館満喫宿泊プラン(計4回、参加者39名)
- 6/8 ~ 7/7 大人のナイトプラン(計8回、参加者252名)
- 7/15 ~ 8/20 夏の水族館探検プラン(計25回、参加者1,162名)
- 7/25 ~ 8/2 第51回サマースクール(計7回、参加者300名)



「サマースクール」

- 7/30 エコキッズ探検隊2024「ウミガメ移動教室」
主催:エコキッズ探検隊運営事業部 講師:吉村課長(参加者20名)
- 9/7 ~ 10/6 レディースナイトプラン(計5回、参加者115名)

●本紙の一部または全部を許可なく転載、複製することは著作権法で禁止されています。

表紙写真:カナダ・チャーチル川のペルーガ